

## 「11 月 14 日のスーパームーン」

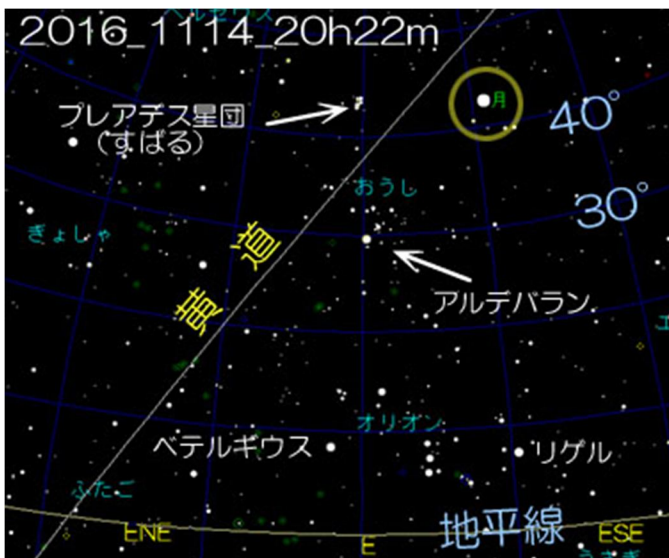
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

月の公転軌道は近楕円なので、地球と月の距離も刻々と変化している。遠い時(遠地点)は約 406,000km、近い時(近地点)は約 357,000km である。近地点と満月が重なった時を「スーパームーン」と呼び、およそ 14 か月に 1 回ある。今回は 356509 km(※)で、スーパームーンの中でも特に地球に近く、これは 68 年ぶりのことだという。

(※) 国立天文台の計算。当方の計算では 536512km。



写真は 2015 年 9 月のスーパームーンの手前を、ヘリコプターが通過した一瞬である。この時は、2 年生の子どもたちとお月見の会「月の学校」を行った。



今回のスーパームーンで、月と地球が最接近するの

は、11 月 14 日の 20 時 22 分である(左下図)。地平高度は 42°、位相は 99.8%。見かけの大きさ(角直径)は 0° 33m 55s と異常に大きく、実際に見えれば、相当に「大きく、明るく」見えるはずである。



上図は、同日 22 時 52 分の星図で、この一瞬が最も「満月」になった時である。高度も 66° で、ほぼ「天頂」に見えるはずである。「すばる」や「アルデバラン」も近く、下にはオリオンも見えて、冬の星座と共演する、豪華なスーパームーンとなるだろう。



残念ながら、全国的に天気が悪そうだ。しかし、満月は一晩中見えている。上図は翌朝 5 時 30 分の満月の位置。西の地平線上に見えるはずなので、14 日の夜に見えなかったら、翌朝に挑戦するのも良いだろう。